若頭の偽嫁は
今夜も束縛から
逃れられない

あぁ…!
拝啓
天国の
お父さんお母さん
あ…♥
し
信一郎さん…
もぉ
やすませて
ください…ッ♥
まだだ…
激しくも
どこか
懐かしくて甘い
この
偽りの夫婦生活は
いつまで
続くのでしょうか…
もう少し
付き合え…
あ…♥
んっ

ちゅん…
ちゅんっ
うわっ
仕事
遅刻する…っ！
あ
そうだった…
もう私
あんなブラック会社
辞められたんだ…
ぽっ…
あっ
こんな格好
のまま…!?
身体
大丈夫か
香菜…

そうだ
昨日の夜も
あのまま
気失って…
ぎしっ
ちゅ
ぎゅっ
どうして
そんな
優しい顔…
また
昨日も
無理
させたな
いえ…
だって
私たちは…

偽装夫婦の契約を
しているだけなのに…!?

一ヶ月前

はぁぁ…っ
今日も
疲れた…

今日も今日とて
残業だし…
散々な目にあったな

ホロッ

3年前
両親が
事故に遭い

天涯孤独になった私は
両親が抱えた多額の借金を
返すために大学を中退した

もう
限界かも…

全品配達前OK!!

ガクッ…

運よく
就職はできたけれど
ブラック会社での労働は
失敗ばかりのツラい毎日…

私の人生
こんなはずじゃ
なかったのになぁ…

よぉ
香菜ぁ～!

残りの借金
五百万円
いつになったら
払うんだよ～？
ま
待ってくださ…
せっかく
男好きそうな身体
してんだ
この身体
使いまくって
金返せよぉ…
いや
いや…っ
そ
そんな…っ
おい
やめろ…

その女は
見張っておけとだけ言ったはずだ…
更にやばそうな人きた…っ
し 信一郎さん…！
信？一ろ…
!?
ばあっ

ら拉致られる…!?
ちょあの…!?
借金取りの顔なんて怖くてちゃんと見たことないし覚えてないよ…
というかなにこの状況…
おいしいけど怖い…
モグッ
え…
…で俺のこと覚えてないのか？
ガツ
ガツ

すみません
おかわり
遠慮なく言えよ
こんなに
たくさんご馳走して
もらっても
今すぐ借金は
全額返せないです…
でも私には
大事なものも
生きる希望も
もう無いので
会社を辞めて
カラダを売ってでも
ちゃんとお返します…
大事なもの
ねえ…
ふーん
じゃあ
借金は無しに
してやるよ
え…？

というよりすでに
借金は全額俺が肩代わりしてやった
その代わりにあんたは…
おっ…
俺の嫁になれ
ピーポー
ピーポー

おめでとうございます若！
…
嫁さんべっぴんやなぁ
パチ
パチ
パチ
去年病気で死んじまったあいつの母親が住んでいた国で
ガキの頃から暮らしてたんだけどよ
ついこの間日本へ戻ってきてな！
海外の大学で経営のノウハウを学んでたから
あれが噂の海外帰りの若頭ですか
そろそろうちの手つけてる企業も拡大させて全部任せようと思ってたんだけどな
はっはっはっ
がっはっ
はー今時のインテリってやつですかあ
うちも世界進出ですな！

回想
私が嫁…？
なっ何を言って…？
あぁ…
配偶者を作っときゃ海外マフィアとの闇取引とか…オヤジ達から組の面倒事を押し付けられなくて済むから楽なんだよ
マフィア闇取引…？
そんなこといきなり提案されてもこの家の嫁なんて私には無理です…
よっ嫁のフリも出来ないなら一時間以内に五百万返済しろ…！
できなきゃ本来払うべきお前が一生働いても払えない分の利息もキッチリ請求するからな
そっそんな…
こうして出会って一ヶ月後には

極道の嫁(偽)

ふわぁぁ…

に
私はなっていた
わけだが……

美味しい
ごはん

ほかっ

ほかっ

顔は怖い
けれど
優しい義父

信一郎を
よろしくな！

飲め飲め！

ガー

あったかい
お布団に
広いお家

ド

ン

つらかった仕事も
一瞬で辞められたし
借金の不安も
全部消えた…！

ぬくっ

ぬくっ

掃除も料理も
しなくていいし

このままなら
これからの人生
最高なのでは…!?

妻って役割は
書面上だけで
本当に
なにもしなくて
いいなんてラッキー！
すぅ…
……っ
ぎゅう…
次の日
あれ？
私…
こんな
派手なパジャマ
持ってたっけ…？
それに
布団も一組
増えてる…？
ドクン…!!

やっぱり
似合う…っ
し…
信一郎さん…？
ばっ
エロすぎるだろ…
ダッ
はあ…っ
もうっ
我慢の限界だ…！
ビクッ
きゃ…っ
む！
きゅう
ガバッ
な
なんの…？

夫婦の営み
ってやつに
決まってるだろ
え…？
!!

ん…っ!?
んぅ
ふぅ…っ
ちゅ。
んむ…
ちゅく。
ふっ
ぷは…
あっ
ちゅぽっ
あっ
あ…！
はあ…

ちゅ
ぷちゅっ
やぁ…っ
だめ…
あ…
ビクッ
あっ
ひ…
あ
ぢゅう…
ガバッ
ボソ
香菜…
あ…んっ
ぴくっ
ぐちゅ…ん
ぷちゅ
ぴくっ

あ
待って…
もう散々
待っただろ…
あ♥
あ…
ふぅ…
すご…
そんな
とこ…
あ♥
た
垂らしちゃ…♥
ぴくん♥
ぴく♥
あぅ…
んん…っ
あ♥
ちゅぅぅ…
ちゅ♥
ぷちゅ…
ちゅん
あ
ひっ♥
ひ…
ん♥

やぁ…っ❤
れろっ
れろ♡
すげえ
濃いの
溢れてくる…
あん♡
ひ…♡
ビクッ
ひっ
舐められるの
相当
好きなんだな？
あっ
あの…っ
ビクッ
ビクッ
あ❤
あっ♡
男の人と
こういうの
シたことなくて…っ
はあ…
あっ
信一郎さん
わたし…
ク
イッ
あ…
やさしく…
ああ
わかってる

ふっ
え…？
ぬぷぷぷぷぷ
んっ
…～っ!?
ぎゅっ
ぴくっ
ズズ
んん…ッ
あっ
う…っ
ぴくん
男を
近づけさせ
ないように
ずっと
見張らせてたからな…

やっぱり
キツ…
香菜
ツラいか…？
だ
いじょうぶ…
です。
すげえ
かわいい…
信一郎さ…

ちゅ
ちゅ
ちゅ
あ
んぁ…❤
あっ❤
ふぅ
…っ
そろそろ
あ❤
動くぞ…
はぁ…っ
ぷるんっ
あっ
んっ
あぁ…っ❤
ずぷんっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あ…❤
ひぅ
んっ
あ…っ❤
すご…っ
ビクッ

やあ
あっ♥
はぁ…っ
あ…♥
ビクッ
ビクッ
…ッ
ビクッ
ビクッ
あ…♥
ぬぷ
ぼん
んぅ…っ
まん…っ
その夜から
毎晩のように

信一郎さんにカラダを求められたけれど…
あ♥
ぱんっ♥
ぱんっ♥
香菜…
はあ♥
は…
これはただの性欲処理の相手…
少し休んでからまたするぞ
はあ…
本当の夫婦みたいに愛されてるなんて勘違いしちゃダメなんだから…

絶対にだめだ
香菜は1人で外出するなって言っただろ
でもでもあのアパートには大事なものをたくさん置いたままで…
すぐ近所だし大丈夫だと…

あのアパートは
俺が引き払う
それに
大事なものは無い
と言ったのは
香菜だろう
……っ
カツ…
カツ
ブーン…
これは
いらないかな！
ガタ…
信一郎さんの
言うとおり
たしかに
大事なものは
無いって
言ったけど…

せめて
本当の家族と
暮らして
友達とも遊んだ
思い出のある
大切な家くらい
ちゃんと
お別れしたいから…
来週また
こっそり来て
整理しなきゃな
もう
夕方だ
全然
片付いて
ないのに…
ガッ
ガッ!

おいっ
暴れんな
もっと
押さえつけてろ！
こんな
貧乏くさい女とは
思わなかったぜ
これが唯木組
若頭の嫁か
とりあえず
全部脱がせて
撮り始めちまえ…！
んっ…!?

やだ…っ
いや…ぁっ
ガチガチ
俺の女に…

香菜に
触るな…！
信一郎さ…ん
ガタン…
ガチャ

さっきの
敵対している組やつらは
部下に
後始末はまかせたが…
香菜が
一人で行動しなきゃ
こんな大ごとには
ならなかっただろうな
どうして
香菜は
俺の言うことを
聞いてくれ
ないんだ…！
ビクッ
ご…
ごめんなさ…

…香菜が
無事で
本当によかった
そゆ？
頼むから
もう二度と
俺のそばから
勝手にいなく
ならないでくれ…
信一郎さん…
はぁ…っ
ぱ！

…でも
え？
あ…っ
香菜の身体を
他の男に
触られたなんて
やっぱり
許せないな
ガシッ
むぎゅっ
他の部分も
触られてないか
身体の隅々まで
チェックしないとな…

し
信一郎さん
これ
ほどいて…っ
ん…
ダメだ
ちゃんと身体にも
分からせてやる…
だめ…ぇ
あ…んっ
あ♥
びくっ
ぴくっ
ぴくっ♥
クリクリ

この香菜の身体を…
あ…
や…
ぷるんっ
ぎゅっ
もっ
もう許して…っ
あ…も…
あの男たちに好き勝手触られたのか？
ギッ
ギッ
ちっ
違…ぅっ
あ…
あ～っ
あ…
おっ
ひ…
ひっ
俺だけのモノなのに…
クリクリッ
クリクリッ

あっ
あん…❤
あ❤
ここも
こんな風に
触られたのか？
むぎゅ❤
ひっ
ひ…❤
やいやぁ…
❤
くちゅんっ❤
んむ…っ
ろぅ…ぅ
ちゅ…っ
むちゅ
ろっ…
絶対に
許さない
からな…
びくっ
びくん❤

あんっ
あ…ぁ
急に…ッ❤
ひっ
あ❤
ばんっ
ビクビクッ
激し…っ❤
ばんっ
嘘をついた
香菜は
信じられないからな
ギッ
ギッ
やっ❤
あ
パンッ
パンッ
もっと
身体の奥の奥まで
調べつくしてやる…
ピクッ
あ…❤
ちゅ…っ
キミッ
キミッ

それ…
やぁ…ッ
あん…
あっ
ぷにゅ
ぎゅっ
ズポッ
ズプ
くりっくりっ…
胸だめ…
やぁっ
あ
むぎゅ
ぎゅっ
あ
ひっ
あ
ひぅ…
つまんでやると
すごい締めつけてくるな…
ぎゅ
きゅん
ぐぐ
ぐぐ
んっ
はぁっ
信一ろ…
さ…んっ
あっ
あ
激し…
ピクン
ピクッ
ぱんっ
ぱんぱんっ
あ
んぅ…

ゴロン…
あっ
後ろ
だめ…♥
ちゅぱっ
ちゅくっ
ちゅ
あ…ん
ふぅ♥
腰
上げろ
びくんっ
ぬぷぷぷっ…♥
ぱんっ
今日
まん圧
すごいな
感じすぎだろ…
あっ
ひっ
あ♥

こんな風にヒドくされるの好きなんだ？
ふぅ…
いやぁ…
あ♥
おっ
奥グリグリしないでぇ…
やぁ♥
ヴヴヴヴ…
あ…♥
あんっ
びくんっ
これ子宮のとこきちゃ…っ♥
ズププププ…!!!
ズンズンズン!!!
や
深…い
あ♥
だめ…
もぉイッちゃいます…ッ♥
ヴヴ
あっ
ずぶんっ♥
ずぶっ
ヴヴ
あぁっ♥

あ♥
ひっ
ビクッ
ずぷっ
ひ…♥
ひぅ
はぁ♥
俺が
イくまで
先にイッたら
許さないからな
あ…
あ♥
ビクッ
ずんっ♥
んぁっ
あ♥
やぁ
もっと
締めつけて
イかせろ…
ずぽっ♥
ビクッ
ビクッ
やぁ…
あっんっ
イッちゃ…
っ…っ
ぎゅうう…っ
ぎゅっ…っ
ぎゅうっ♥
ぎゅ♥

グポ…
ぱんっ
ぱんっ♥
ぱんっ♥
ぐぽぐぽぐぽ…っ♥
あ♥
あ
中すご…♥
ふぅ…っ
んっ♥
お
お
お
パン
パン
パン
パチュ…♥
んっ
あ
あぅ…♥
ビク
ビク
ビク
びくっ
びくっ
びくっ…♥
ビク
ビク
ビク
ぴくっ♥

ぽんっ
あ
あん…♥
はあっ
ぎしっ
ぎゅっ
ちゅっ
ん…♥
フランスに
引っ越しても
絶対に…
ぼくのこと
忘れないでね

香菜ちゃん…
帰ってきたら
ぜったいに
会いに来てね
ずっと待ってるよ
シンちゃん
香菜は
いつになったら
俺を思い出して
くれるんだ…
え？